

Non Profit Organization  
NARA FORUM21

# naraなら

「奈良二十世紀フォーラム」が、特定非営利活動(NPO)法人の認証を得てから二周年になるのを記念して、先頃政府が国家戦略に位置付けたIT(情報通信技術)革命をテーマに取上げ「ネオIT革命は私たちの暮らしをどう変えるか」と題する市民シンポジウムを、二〇〇一年五月二十六日、なら一里り年会館中ホールで開催しました。

政治的に中立の立場を取らざるを得ないNPOが、賛否両論の激しいこうした大きなテーマを取り上げるのは、おそらく前例がありませんが、当日は奈良県知事や奈良市助役もかけつけて、祝辞を述べて頂きました。また、記念講演者やパネルディスカッションのパネリストが、皆に衣を着せぬ熱心をつくす討論を展開され、同種のITシンポの迫力を誇らない高いレベルのシンポジウムとして、盛り上がりを見せました。

そこで今回はITシンポジウムの特集として会報を発行します。二時間半に及ぶ内容を全文掲載することは紙面の制約上困難なため、ITに取組まれている市民にこそ有益なと思われる論議、具体例を中心に採録したことをお話し頂きたいと思っております。

(事務局)

## 祝辞

奈良県知事

楠本善也



「奈良二十世紀フォーラム」が、設立二周年を記念してシンポジウムを開催され、私もお招き頂き喜んで参加した次第です。実は「奈良二十世紀フォーラム」の理事長の石橋さんが、去年まで奈良県の公安委員を勤めてくださいます。私もいろんな機会に親しくさせて頂き、石橋さんがNPOを立ち上げる前も伺っておりました。私に内々幅広い活動をされ、うらやましく感じました次第です。設立二周年にシンポジウムを開催されその着実な歩みに感心しています。また「奈良町」の古く年中行事をビデオで残す事業や、吉野の方でも水源をよぐる活動をなさることで、「奈良二十世紀フォーラム」の事業計画を拝見しますと、本当にNPO活動として、核になるような歩みをされているところで、誠に感心しきく発展を心から祈念するものです。

さて、NPOは法律がまだ出発しませんが、中にはNPOが出来たから補助金を出して欲しいという声もあり、それには懸念が違うのではないかと申し上げました。これはやはりNPO

Oがパートナーシップを、それぞれに企業なり行政なりとお持ち頂き、第三の社会的存在として成長して頂くべきものだと思います。

世の中に「第三セクター」という言葉がありますが、これはこれまで民間と行政が双方力を出し合って推進するようなものを称しており、うまく活動しているものとそうでないものがあります。しかし、NPOの活動を見ていると、これが本来の「第三セクター」ではないかという気がしています。というのは、企業はやはり一定の利潤を挙げる事を最終の狙いとしています。行政は公の公益を達成するためにある。今また民間あるいは個人でやれないことは、日本ではどこか公益で実現しないかとやってみたのですが、それだけでは充たされない。そういう分野が今では日本でNPOによって定着しつつあるのではないかと感じています。

石橋さんのこの「奈良二十世紀フォーラム」を見ますといよいよそういう動きがでてきたなと思います。そういう点から今後とも目標の協力を頂きながら確実に、しかも要領を得た嗜好で行政ともいんな面でも、むしろこういう仕事はNPOにやってもらいましょうとお願ひできれば有難いと思っております。

(以下略)



## 祝 辞

奈良市助役

南田昭典



「奈良二十世紀フォーラム」が設立二周年を迎えられました。定款を拝見しますと、役員はそれぞれの世界をリードされている方々ばかりのNPOでありまして、私ども、心より力強く感じているところであります。

この年間色々な活動に取込まれ、文化・芸術・スポーツと幅広い市民活動を進められて来られました。これからさらに発展させますようご祈念申し上げます。

今日は「なごりりりり年会第一」の会場に「IT関連の新しい機器が並んで、手に触れるられるような展示で、私も冥しく拝見しました。また「IT革命を中心としたシンポジウムのパネリストは、いずれもその道の権威であり、私もアイスカッションを聞くのを今から楽しみにしています。

さて、奈良市もIT講座を進めており、二万二千名の市民に受講して頂くように取組んでいます。多くの方々もIT機器に親しみ、それが私たちの生活の中で効率よく役立つことを期待するものです。奈良市も平成十二年から新しい総合計画を策定し、そ

の中にもIT革命に対応した情報化の推進をはかる為、現在ハード機器の整備を進めておられます。いずれにしろ、私たちの生活からITは切り離すことのできない存在になっていきます。その意味ではこのシンポジウムは、時機にかなったテーマと期待しています。最後に「奈良二十世紀フォーラム」の今後益々の発展と関係各位のご活躍を祈念申し上げます。私の挨拶といたします。

## 記念講演

「ITで変わる私たちの暮らし」

近畿総合通信局長

上田 誠也



「IT（情報通信技術）革命は、かつて人類がその暮らしを変えた農業革命、産業革命に匹敵する「第三の革命」と言われる。それは情報通信技術の飛躍的な発展を背景としたインターネットの爆発的普及による社会経済全般にわたる大変革であり、いま各国とも世界をリードしようという懸命な取組みを進めているところである。

このITによる変革の波は、政治・産業・文化の分野ばかりでなく、これからの私たちの生活をどのように変えていくのでしょうか。例えば学

童は遠くの学校と遠隔授業や在宅授業ができるようになるでしょう。またこれまで役所に行き届かなかった高齢者からパソコンなどを使って手続きが出来ます。さらに自宅にいながらにして病院の定期検診や同診が実現するでしょう。この他ネットワークを通じて商品やサービスがこれまでより安く予約・購入できるなど暮らし向きが大きく様変わりするのは間違いないと思えます。

特に商取引の分野では、インターネットを利用した電子商取引が盛んになります。日本では1999年、インターネットを利用した最終消費財の取引額は二千五百億円と全産業の売上の上のまだ0.6%にすぎませんでした。が、2000年には七兆円とわずか五分の一で二十倍以上に急増するものと推定されています。一方企業間の生薬部品など中間財の市場は、1999年に十四兆四千億円（全体の3.3%）と最終消費財の取引に比べれば相当落ちましたが、こちらは五・六年後には百三兆四千億円の規模に膨れあがるものと見られています。

電子商取引の分野でこれから利用される商品の例は①ホテルの予約②コンサートのチケットの購入③航空券・鉄道乗車券です。いずれ客の半数以上がこうしたサービスをフック

インターネットを知って購入したいと思っています。

さらに暮らしを大きく変えるIT技術として注目されるものに家電製品と情報機器を合体させる「情報家電」があります。

私どもの関西でも池田でぬいぐるみの「ペット・ロボット」の実験が一世帯を対象に行なわれています。一人暮らしの飼主が飼育しますと返事をしたり、まちのニュースを知らせてくれたり、二十種類位の情報を入れてくれるロボットです。また奈良の大和ハウスの研究所では、家の鍵のかけ忘れ・電灯消し忘れを携帯電話でメッセージする実験が行なわれていました。いずれも安心して、快速に暮らしをよりよく利用する試みです。

こうしたITの普及は国際的にみて、我が国ほどの水準にあるのでしよう。IT社会の中核はインターネットとモバイル（移動体）通信です。

(一) 我関におけるインターネットの普及率は昨年度末（2000年）で37.1%。世界十四位です。利用者は四二二〇三二万人、このうち三千四百五十七人がインターネットに接続する携帯電話の利用者です。

(二) 一方PDSを含むモバイル通信の対人口普及率は1999年9月現在で41.0%、世界でこれも十四位。しかしその後2000年の契約数は、



六千三百八十八万人（全体の31.4%）で、近畿では大阪・京都が五割を越えその他の県は半分に達していませんが、もう我が国も二人に一台の時代を迎えると言えよう。

最大の問題は動画や高音質の音楽などの情報を、定額・低額・高帯で送れるCATVやDSLなど（表参）広帯域の通信網の普及状況が、アメリカは勿論韓国に比べても著しく遅れている点です。政府の中にも「このままでは我が国が世界の中で遅れてしまう」という危機感が生まれました。

そこで政府が「五年後には我が国を世界最先端のIT国家に仕上げる」という目標を掲げ、戦時を今年の二月二十二日に決定し、今年の三月二十九日には五つの分野からなる重点計画を決めました。

(一) 世界最高水準の高度情報通信ネットワークの形成

2005年までに超高速インターネット（光ファイバー利用）を全国二千万世帯に張り巡らせる。また高速インターネット（DSL・CATV）を全国二千万世帯で使えるようにする。

(二) 教育と学習の振興並びに人材の育成

誰もがインターネットを使えるように全国五百五十万人を対象にIT講習会、全学校をインターネットに接続する。

(三) 電子商取引の促進  
(四) 行政の情報化及び公共分野における、情報通信技術の活用と確保

2005年までに電子政府と電子自治体を実現させる。

(五) 高度情報通信ネットワークの安全性と信頼性の確保

以上五つの柱です。  
ところで地域で情報化を進めるには、住民に身近な地方公共団体の取組みが重要であり、特に市長、議会、自治体職員など地域のリーダーの意欲がポイントであります。

地域では全国で三千三百ある市町村を一千位にする市町村合併が課題となっているが合併によって施設が遠くなる。このため最寄の郵便局を活用する法律が、いま審議中だが、大阪の羽曳野市では住民票の交付機を郵便局に設置、窓口として利用する実験が行われている。

終わりにIT革命に好むと好まざるに拘わらず到来するでしょう。忘れてならないことはIT時代の主役もあくまで人間であり、折角のITを人の道具として活用していくことが大切です。多発するメル友犯罪などマイナスの利用にならないよう、トータルな人間教育、人間を磨いてゆくことも忘れてはならないと思います。

※通信ネットワークの実力比較(事務局)

| 方式                     | 現状   | 長所   | 短所                                  |
|------------------------|--|--|-------------------------------------|
| ISDN<br>(2回線の<br>専用回線) | NTTが独自開発普及を促してきたが、伝送速度が速く転送容量が大きい。伝送に制限がある。      | 専長帯内でも所帯のほとんどに普及。前二回線回線はOK。上回線帯内は半分これを利用。          | テレビの画面のような動画や高音質の音楽などの伝送が難しい。       |
| CATV                   | 電線の置きかえに伴ってテレビを見るための全国700局開設。同軸ケーブルの空きを利用して伝送する。 | 全国で62万5000人がCATVでインターネットを利用。もっとも身近なコブロードバンドとなっている。 | CATVの古い機材では、利用できない。集合住宅では設置が多い。     |
| ADSL<br>(1回線の<br>専用回線) | 全国に張り巡らされた電話線をそのまま利用できる。アメリカで開発。敷設も送れるので急速に普及。   | 既存の電話線をそのまま利用するため、光ファイバー敷設機材以外はこれでテレビ等のスピーディーな確保。  | 利用者にモデムを購入しなくてはならない。伝送量の大型画面の伝送は難し。 |
| 光ファイバー                 | 超高速インターネットの本格。2005年までに1000万世帯に普及させる計画。           | 米国の普及。高音質の音楽伝送。大画面で閲覧でも映画やハイビジョンが楽しめる。             | 利用者はまだ利用不可。                         |

\*追記 事務所に上田誠也所長は、最新のIT受領情報をもく収められ、わかりやすく個人へのメールにわたる書類用アクセスを準備され会場で配布された。従って当日出席された方々に郵送と具体的な事例を中心に指導させて頂いた。(事務局)



左下 常木君 NTT FAX P750-LD 送受信機に接続して送受信機



右下 次世代IT機器展示 (4F5Fにて)

(協賛: NTT 西日本奈良支店・NTT コミュニケーション奈良支店・凸版印刷)



## パネルディスカッション

「ネオIT革命は私達の暮らしをどう変えるか」

### 【パネリスト】

前奈良県情報システム課長

辻本 俊秀

前NHKアナテック営業取締役

貴志 信往

NETT西日本奈良支店長

西尾 彰夫

三和総合研究所主任研究員

保志場 国夫

【コーディネーター】

大阪21世紀協会理事 堀井 良哉

（堀井）先の記念講演の中で日本がインターネットの普及では、



世界で十四位で、まだまだ遅れているという指摘がありました。もう少し遅れたかと言いますと、これは私の理解ですが、私たちのパソコンは情報の進路つまりパイプ（加入者数）を通じてインターネットの世界につながっている。ところが日本ではこの通路が細いので、なかなかつなばれない、遅い、料金が安いという問題があるのです。その辺は実はNETTが日本の通信網をつくってこられた

訳です。この間の事情はこのパイプがこれからどれくらいのスピードで、太くなってゆくのかわからない。私をお話をNETTの西尾さんに伺いたいと思います。



（西尾）のっけから非常に厳しいお話をですが今の質問にお答えする前にビデオを見て頂きたい。というビデオかというとうとう、堀井さんが話された加入者数が一細い、太い、という点です。情報が早く大量に行く、なかなか行かない、という比較のビデオです。（表のA）（表のBは奈良県内の普及計画）

次に先ほどの堀井さんのお話ですが、

| 加入者方式  | 普及率        | 2001年度 | 2002年度 | 2003年度 | 2004年度 | 2005年度  | 方式     | 性能            | 映像再生状況           | 再生時間 |
|--------|------------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|---------------|------------------|------|
| SDN    | 34千コピ/秒    | 75% 市域 | 64% 町域 | 67% 全域 | 67% 全域 | 67% 全域  | SDN    | 34千コピ/秒       | 低速でなかなか映像が再現できない | 30秒  |
| ADSL   | ISDNの20倍   | 9市     | 68% 市域 | 77% 町域 | 87% 全域 |         | ADSL   | 500千コピ/秒      | ビデオ並みのスピードで再生される | 10秒  |
| 光ファイバー | 100メガビット/秒 |        |        | 25% 市域 | 25% 市域 | 75% 10市 | 光ファイバー | 10~100メガビット/秒 | 遅時に再生される         | 1秒   |

（表のB）

（表のA）

ADSLのサービスを取り入れるのが、日本は遅れまして実はISDNが普及して、いきなり光ファイバーへ行こうと考えていました。その間、アメリカやヨーロッパでは光ファイバーが流行らなくて、今の電話線を利用して通信を高速化する、ADSLの技術が発達したので日本が遅れた。また韓国がこのADSLのサービスを導入して急速に伸びてきた。日本も遅ればせながら去年あたりからADSLのサービスを始めました。

ADSLは光ファイバーサービスへのつなぎと思われていますが、やはり最終的には光ファイバーを入れたいと、テレビの画像とか、それ並の大量の情報を早く、双方向で通信するというのは無理なので、いずれ光ファイバーを利用する方向へ行くのです。ただまだ大量の光ファイバーで送らなければならぬような、例えば、映画のようなコンテンツ（内容）が数多く無い。今のところ、ADSL位のスピードでゲームの映像も動画も十分だということ、あつてADSLを導入し始めたということですね。

（堀井）もう一つありがたいことだと思います。NETTが独自に開発したISDNにこだわった為、若干もたもたしたがる、やるやめるをこの利未集計してやるので、早急に進んでいる、ここ五年位の間に世界のトップに振り出ると

いう話です。そうすると、この奈良もブロードバンドが入ってきた大いに変わるのではないかと思われます。実は今日は三和総研から地域計画、都市計画の専門家にお出頂いています。保志場さん、この二、三年日本も大きく変わろうとしています。その中で奈良の位置についてどういう風に考えておられますか。



（保志場）ちょっとおささきにようになりますが、IT革命というのはコンシューマーが変性能力になつて安くなった。通信も大容量化して高速化したのでみんな使いた。そうすると販売の新しいルートが出来ます。企業から企業がB to B（企業間取引）とかB to C（企業、消費者間取引）とかネット上で取引できるようになった。それを利用して儲かる仕組みが構築され、多くのベンチャーが参入するという仕組みです。しかしこれは私たちの暮らしを本当に変えたのか。実は革命というのは、国とか地域とか企業とかがツールに構造的に変革することだと思うのですが、今のそれは、あくまで企業側の論理である。事業のスピード、効率化が上がった位かなと私も思っています。三和総研にも賛否両論がござります。

ところが、このIT革命に「ネマ





が付くということ、ちよつと向へてみました。最近「ピアロピア」という言葉が出てきました。これが次世代のインターネットだということ、これならちよつと変わるかと考えています。今のインターネットは「クライアントサーバー型」といって、クライアントとサーバーの間にデジタル情報を記録するサーバーを持つプロバイダー、つまり組織さんみたいな仕組みのものがあり、個人と個人が直接つながっているのではなく、中心に何か取り纏まらしている人がいる。実はこれに情報を管理されている感じになります。それがこれからは、サーバーの存在なしに個人

人と個人が直接情報をやりとりする。自分のパソコンから直接他人のパソコンの中を見る事が出来るようになると思います。

また、いわゆる、光ファイバーになりますと上下とも大容量となり、商業施設に囚えるとテナントビルに入つてテナントのオーナーには管理されている形から、売店街のような形になります、そこが店が変わると言えば、ビジネスが変わる。地域産業では大きな組織から小さな組織へ水平分業が進む。組織も総合方といつたものではなくて、小さくても勝負できるようなものがある所が発展する。と考えると奈良の未来が見えてくる。観光産業につきましてもいろんな業種が集まった今の業態が利用者サイトにたったマーケット型に変換する。

ライフスタイルはどうか。組織の時代から個人の時代になるといわれ個人が情報発信源になり、そうすると個人の能力自体が求められる。異なる個を尊重する「おつきあい」の仕方というものをトーンニングする必要があります。こうして鍛えられます。かなり変わった社会になります。そうしたら鍛えられた個人が集まった多様なコミュニティが活発に活動する。「こうなつてほしいなあ」という社会の仕組みが出来ることになります。

例えば今夜が非常時に危機感を感じている「生活の安心」というものを手にいれることのできるだろう、IT革命でどう変わるかは、IT革命で私達自身が私達の暮らしをどう変えるかという風に捉えましょう。教育、福祉とか企業サービスで対応しきれず、公的セクターが対応できなかったことが、コミュニティが主体となって出来る仕組みが出来上がり、未来が見えてくるのかなとそういうふうに考えています。

(堀井)はい、ありがとうございます。大きな課題で議論してみたいのですが、本日はあまり時間がありません。次に放送の手を伺いたいと思います。去年の暮れからデジタル放送が始まったのですが、今一なじみがない。このデジタル放送というのは「IT革命にどうからんでいるのか、長くNHKの技術のリーダーをしてもらった眞志さんに、解説してもらいたいと思います。



(眞志)今お話が、あります。すでに昨年十一月から衛星放送(BS)がデジタル化され放送が開始されました。今私達が普段見ている地上波のテレビもいずれデジタル化されます。

デジタル化されます。デジタル化とはいったい何か、今日は大胆にその辺に絞って話します。

デジタルとは「コンピューターで処理できる」という風に理解して欲しいというのが私の主張です。コンピューターというのは実は計算機です。計算機です。コンピューターで扱える情報は数字です。文字ではありません。この数字をコンピューターが正しく算したり引き算したりして情報処理しているというのが、デジタルの世界の実態です。

さて、私達の周りを見ますとコンピュータを使った機器に囲まれています。家庭用の洗濯機・冷蔵庫・炊飯器・トースター・デジカメ・VTR・TV受像機・携帯電話・・・。そういうわけで、身の回りにはいつの間にかデジタル化されているのです。残っているというか遅れているのが通字と放送の分野です。ところで、デジタル放送というのは、放送に使う電波をデジタル化することです。電波は今ではアナログ的に使われていますが、何故デジタルにしなければいけないかと一言と周波数を節約したいというのが一番の大きな理由です。

周波数資源というのは、国が管理していきながら、需要が非常に多い為、資源が足りなくなつて来ます。そこでアナログ放送をしているテレビジョン



ンが阻われまして、整訳に使っている  
じゃないかということ、デジタル化  
を進めるわけで、これは欧米の先進  
国でも行なわれ、日本はやや遅れてい  
ます。デジタル化しますと、周波数  
が節約され、現在1チャンネルで送っ  
ている番組があるとすると、デジタル  
にしますと16チャンネル位送れます。  
従ってサービスの内容も多様になっ  
て参ります。

アーチ放送とか双方向サービスとか  
これまで出来なかったサービスが可能  
になります。もう一つ画面が綺麗にな  
ります。それから大容量を要するハ  
イビジョンが自由に送れるとか、地上  
波では、ゴースト（映像が二重三重に  
なる）が生じなくなります。これか  
ら光のスケジューリングは地上波のデジタル  
放送が2003年に関東・東京・近  
畿の各圏でスタート。その他の県庁所  
在地は2006年にかけてデジタル化  
します。今のアナログのテレビはずっ  
と放送を続けますが、2011年度  
あるいは2011年度末に今のアナロ  
グ放送は終わりになります。ですがか  
ら現在のテレビ受像機は2011年頃  
から使えなくなります。アナログの  
衛星放送も衛星の寿命がつかまる頃無  
くなります。

（堀井）ありがとうございます。  
デジタル放送で一番のメリットは電波が  
節約されるというお話でした。また、

ここ奈良県のIT化に取組み推進して  
こられた責任者に来て頂きました。  
辻本さんは今、奈良テレビにおられま  
すが、奈良県のIT化をこのように進  
めて来られたか、そしてこれからどう  
なりますか。



（辻本）スオウ  
IT革命のうち、  
ハードの整備は  
民間主導で推進  
され、ISDN、  
ADSL、光ファイバーなどの通信網  
が奈良県でも、需要に応じて民間で  
進めて頂けるのが、基本的なパターン  
と認識しています。問題はそれを使  
う人、県民の皆さんがそれをどのよ  
うに使うかということとされるのか、その  
方向性を見極めて施策を進めて行か  
なければなりません。

まずIT講習会  
奈良市万二千八、奈良県で六万  
人が受講して頂けるメダが立ちまし  
た。実を言うと前年度に四百九十五  
人の定員で講習会を開きましたが、  
三千八百人の公募があり、驚きまし  
た。会場には二十代の学生から上は  
八十二歳の任職までおられ、これまで  
ワープロを使って情報に送っていた法政  
や連絡をインターネットのメールで送  
りたいということでした。  
— 学校教育も様変わりしています—  
平成十七年までの県の総合計画で

定員四十人のパソコン教室に、これま  
で二百台だったパソコンを、一人に二  
台に増やすことになっており、奈良高  
校では今年と来年度には配備を終わ  
ります。

住民基本台帳のネットワークが来  
年の八月からスタートするということ  
で、市町村を挙げて準備に迫られて  
います。奈良県のホームページも四千  
五百ページになりましたが、県内でも  
四十七市町村のうち二十七市町村で  
インターネットのホームページを立ち上  
げています。校所内のネットワークも  
三十三市町村が完成、今、八市町村  
が準備中で平成十五年度までに終了  
しないと全国三千三百の自治体や政  
府との接続が出来なくなります。

（堀井）辻本さんありがとうございます。  
ました。ここでも私が申しあげたい  
のですが、それはパソコンのキーボード  
を操作することが目的ではないという  
ことです。いずれこのキーボードとい  
うのは無くなっていく、どうなるの  
か。言葉を通じて機械が動くように  
なる。そういう研究も進んでいます。  
重要なのは、IT化で私たちのライ  
フスタイルが変わっていくことではない  
かと思えます。ITに取り組みますが、  
無視しようが、私たちの個人生活、  
家族関係、職場関係に変化が起き、  
それは避けられません。

本日は時間がありませんので、これ  
から三言だけ申し上げて後半のテーマ  
に移りたいのですが、それは今、恐ろ  
しい勢いで「創造的破壊現象」が起  
きているということと、これを乗り  
越えて次に「ホッパ」のように素晴らしい  
社会が開けるかということになって  
いく。この破壊現象つまり「痛み」  
をとらぬものだとすることが判ってい  
ないといけない。例えば消費者と生  
産者の論理でやっていたのが圧倒的  
に消費者の論理でやることになる。  
そうすると既存の秩序も崩壊してい  
く。これまでもこれが国の仕事、これ  
は吉田村の仕事、後には民がやるとい  
うのはすまない。中間が不要にな  
る。トップと現場が密着しなくなっ  
ていく。トップと現場が離れていま  
ますから、ピラミッドが壊れていま  
まのような総長はなくなると。部  
理長の大量失業が生まれる可能性が  
ある。

さらに透明性が最大し情報公開が  
進むとガラス張りになる。そうなる  
と密室でやっていたことが通らなくな  
る。系列というものが無くなってい  
く。聖域なき見直しで何が起るか  
というところ、二酸化炭素現象が起る。つまり  
勝組と負組に分かれる。ではこれを  
乗り越えて私たちがどのように生き  
たらいいのか。ライフスタイルの変革  
を乗り越えてしかも奈良県という立





場にてインターネットを使いこなしてどういったことが出来るのか。保志場さんどうですか。

(保志場) 具体的な事例を聞くお話したい。実は神奈川県に大和市という市があります。私はそこがもともと情報化が進んでいるように思いますが、今日は行政の方々も大勢お出で頂いているので紹介したい。この市では各課の長の権限で各自担当者で作った情報システム、ウェブ、ホームページをという「分散型行政情報公開蓄積体制」をとっています。しかもここでは市民との双方のページを設け、市民から投稿されたメール(意見)を全職員がパソコンで見ることが出来ます。で

すから投稿が、都市計画が福祉かわからないものでも、どの課の職員もそれを見て、誰でも答えることが出来るシステムになっています。

市民の市政への参加率はこれまで2%でしたがそれがインターネットを使うことで十倍になりました。また、市内の公民館や図書館などのコミュニティセンターにパソコンを設置し、これまで市とは接点の無かった、高校生と中学生が訪ねてくるようになりました。こういう効果を作りだしたのはトップダウンではなく、一職員が危機感をもってグループを作り、自分達でホームページを作る技術も身に付けて、楽しみなが実演を作ったトップに認められた。インターネットを通じて市民とのやりとりの中で決めたことだからと、市議会でも認められ易くなり議会調整も少なくなる効果が現れたということです。行政の電子化というキーパーを置いたり光ファイバーを敷いたり、それにハード面では必要でしょうが、ソフトの運用体制という面ではこういう方向もあるのかなと一つの事例を紹介しました。

(堀井) ありがとうございます。次に江本さんお願いします。

(江本) 奈良県でも桜井市のホームページに職員の自主研究グループが立ち上げました。市の職員が積極的にやってくれまして結構うまく進んでい

とがあります。奈良県でも職員を対象にホームページの作成研修をしており、去年二百八十人、今年も百五十人位の職員が研修を受けます。それから「行政の窓」というホームページを県が出しており、県民の皆様から意見・希望・要望が毎月六十七件届いており、「電子県庁」を推進しています。奈良県内の吉田村にもこの二三年の間にインターネットに住民向けのホームページを整備し、早くこれにしています。

(堀井) ありがとうございます。資料によるとインターネットの普及率は奈良県が滋賀県に負けていますのでこれからは頑張ってください。それでは貴志さん。

(貴志) 補足としては、地上波のラジオのデジタル化が2003年まで東京・大阪で試験的にスタートします。メーカーや国の関心も高く、古くて新しいメディアとして受け入れられるものと期待しています。もう一つ、放送と通信の融合については私は次のように考えています。放送というのは、送り手側「放送者」で作った料金を私たちが受け取り、頂くというのが放送です。一方、通信は相手があり、

それらの方も料金を作って返してくれる。それぞれが料金を作る、手前をかけてコンテンツを作り、やりとりするものと考えます。これが融合する

とどういったことなのか、答えがでないまま、西尾さんにパトタッチしたいと思えます。

(西尾) 堀井さんが言われたようにITはキーボードではないと私も思います。IT化はやはり、情報発信する装置を安くご家庭でも使えるように私どもとしては提供することが思う。それを使うことが出来るかということになりますが、いずれにせよ勝組の一人勝組が生かせる商品情報をインターネットにのせると世界中から注文が来る。一円でも安ければ勝組になる。今までは新聞にチラシをはさんで配りスーパーマーケットが大売り出しをする。それはその街の話でした。これをその地方、その国・世界へと広げる装置それがITだと思えます。そこで、影響を受けるのが流通だと思う。情報が流通を変えていく、もしくは生産と直結するということが、もど言いますと行政も住民と直結するようになります。

先ほど言われたのですが、日本ではインターネットで大量の情報を広げるサービスは選んでいます。通信の料金はほぼ世界標準をみになってきました。後は、先進国とADSLで並んで光ファイバーで運転するというのがポイントです。さてどういふことかという点、世の中の人間がやらなければならぬ仕事を機械ですまする。



